

令和5年8月18日

亀岡市議会議長 菱田 光紀 様

会派名 かめおか党

幹事長 竹内 博士

会派視察調査報告書

会派視察調査の結果について、下記のとおり報告します。

記

- 1 視察期間 令和5年7月18日～7月20日
- 2 視察場所 長崎県長崎市、福岡県福岡市、福岡県北九州市
- 3 調査項目 長崎市：M a a Sを活用した観光振興について
福岡市：広報戦略について
北九州市：MRやVRと自動運転の取り組み
- 4 参加議員 竹内博士 土岐新
- 5 概 要 別紙の通り

視察概要

7月18日（火）

視察場所 長崎県長崎市

視察時間 13時30分～15時00分

調査項目 MaaSを活用した観光振興について

説明者 江島久輝（長崎市企画財政部長崎創生推進室係長）

藤尾秀樹（株式会社ゼンリン ビジネス企画室部長）

牧野浩次（株式会社ゼンリン 地域共創担当）

※写真添付



視 察 場 所	長崎県長崎市
調 査 項 目	M a a Sを活用した観光振興について
視察の目的	アプリを活用した新たな観光戦略を調査するため
施策等の概要	九州の西端・長崎県の南部に位置する長崎市は、遣唐使の派遣拠点となるなど古くから海外と交流があり、日本の「窓」として海外から様々な文化が入ってきた。それらの有形無形の文化が今では観光資産となり、日本有数の観光地として多くの観光客が訪れている。その長崎市が、新型コロナウイルス感染症の影響によって激減した観光客に再び長崎観光を楽しんでもらおうと取り入れたのが、ゼンリンが開発した、長崎観光をバスや路面電車といった公共交通機関での移動で支援するM a a Sサービス。アプリを開発し、旅の計画から検索、実際のナビまでを網羅した画期的な取組である。
考察	（株）ゼンリンと取り組むことで、より詳細な地図を活用でき、観光振興に大いに役立っている。なかでも「旅前」「旅中」「旅後」と3つの場面に分けて課題やニーズに合わせた的確な情報提供を行うことは観光客の満足度をあげて、リピーター増加などにつながるができる。今後の可能性として市民生活にも大いに役立つものと期待が持てる。具体的には子育て中の家庭や独居老人家庭への訪問など活用の幅が広がる。
議員意見等	長崎市で実験的に行われた取組ゆえに、様々な実証実験データも蓄積されつつある。他地域でも十分に生かせる汎用性の高いものと思われるため、亀岡市においても活用できると感じる。 例えば「空き家バンクと連動させた空き家だけを表示させる地図」「災害時などのハザードマップ」などトレースできるものとしては幅広い。 情報のD X化、デジタル行政の取組とも連動させ、いかに行政サービスを的確に効率的にするかが大切だと感じた。
その他	要望さえあれば本市へも説明に来ていただくことは可能とのこと。

視察概要

7月19日（水）

視察場所 福岡県福岡市

視察時間 10時00分～12時00分

調査項目 広報戦略について

説明者 吉村真里代（福岡市市長室広報戦略室広報戦略課企画係長）

宮本芳行（市長室広報戦略室広報課広報第1係）

山口哲生（福岡市議会事務局総務秘書課総務係長）

※写真添付



視 察 場 所	福岡県福岡市
調 査 項 目	広報戦略について
視察の目的	市民周知の方法として、先進的な広報戦略を調査するため
施策等の概要	情報化社会のなか、いかに戦略的な広報発信をするかは自治体の生命線でもある。福岡市では高島宗一郎市長が元 K B C 九州朝日放送の社員であり、福岡の朝の顔として情報番組や環境番組のキャスターを務めた経験から、広報戦略に力を入れており、紙媒体だけではなく S N S も戦略的に使い分けるなど画期的な取組が際立つなど、最先端とも言える行政の広報戦略を実施されている。
考察	福岡市は 1 6 3 万人を超える都市。広報戦略室業務執行体制は「広報戦略室長」「広報戦略課」「広報課」「報道課」に分かれている。姿勢だより（紙媒体）の他に、ホームページも行政ページやシティプロモーションサイト、Y o u T u b e など色分けを明確にし、S N S とも連動させながらトータル的な情報発信に力が入っている。調査によると市民が情報を得るための広報媒体は「市政だより」がトップでデジタル社会においても紙媒体の強みを感じる。
議員意見等	亀岡市においてもシティプロモーションに力が入っており、テレビ局と連携するなどして「デジタルファースト」で取り組むことを宣言している。自治体の規模として福岡市と亀岡市では異なるものの、発信の手法などは大変参考になった。 特に S N S の使いわけや「誰に」（ターゲット）、「いつ」（タイミング）を明確にしている点などは本市でも再検討すればよりの確な発信につながると感じた。さらに、公式 LINE の登録者が福岡市の人口よりも多いという事実は、他府県の人が登録している証拠であり、魅力的な発信が伺えた。

視察概要

7月20日（木）

視察場所 福岡県北九州市

視察時間 10時00分～12時00分

調査項目 自動運転とXRで街をテーマパーク化する実証実験について

説明者 森幸二（北九州市市議会事務局政策調査課長）

北尾多喜男（北九州市企画調整局企画政策部企画課特区担当係長）

※写真添付



視 察 場 所	福岡県北九州市
調 査 項 目	自動運転とXRにより街をテーマパーク化する実証実験について
視察の目的	ITの活用による観光等の戦略について調査するため
施策等の概要	コンフォートデジタルツーリズム協議会が、福岡県北九州市の八幡東区東田エリアを先進技術でテーマパーク化する実証事業「どこでもテーマパーク」をスタート。同事業は観光庁の「これまでにない観光コンテンツやエリアマネジメントを創出・実現するデジタル技術の開発事業」の採択事業として実施されるもの。ゼンリンデータコムが代表企業となり、久留米工業大学、コンピュータサイエンス研究所、三菱総合研究所、NTTドコモ九州支社、北九州市が参画し、XRや自動運転、5Gといった最先端の技術を活用し、JRスペースワールド駅の駅前一帯をテーマパークとして体験できるようにした。
考察	北九州市八幡東区東田エリアは、「世界遺産官営八幡製鐵所」をはじめ、「いのちのたび博物館」、「環境ミュージアム」、「スペースワールド」など、多彩な歴史・文化・エンタメ施設が集積し、北九州市の歴史と近未来を体験できるエリアとして多くの市民から認知されてきたが、スペースワールドの閉園、そして昨今のコロナ禍の影響等により、エリア全体での来訪者は減少傾向にある。課題を解決するため、このエリア内に点在する魅力的な観光コンテンツをデジタルアトラクション化し、エリア全体をひとつのテーマパークのごとく機能させる「エリアテーマパーク化手法」のプロトタイプ開発を行い、機能検証と効果測定を行う。本事業を通じて、魅力的な特徴を有しながら集客に苦戦する全国の地域に対し、新たな観光コンテンツの創出を手助けするソリューションパッケージを構築することをめざしている。
議員意見等	亀岡市でも、MR Googleを使って亀山城趾を案内するサービスが大本本部で行われているが、例えば「自動運転技術」を城下町エリアなどで展開し、そこへMR Googleを導入するなど、これまでの観光資源をリニューアルして新しい可能性を持たせるなど亀岡でも活かせるポイントが多々あると感じた。 また、デジタル化技術を駆使することで「環境」「経済」「社会」の好循環にもつながる。

